

## 補足資料 COVID-19 への対応

### 1. 野球競技における COVID-19 への対応

#### 1) 開催期間

- ① 2020 年群馬県高等学校野球大会(夏季大会):2020 年 7 月 18 日～8 月 10 日
- ② 第 73 回秋季関東地区高等学校野球大会群馬県予選(秋季大会):2020 年 9 月 5 日～10 月 4 日
- ③ 第 73 回春季関東地区高等学校野球大会群馬県予選(春季大会):2021 年 4 月 10 日～5 月 2 日

#### 2) 政府・自治体等の指針(警戒度)

##### ① 夏季大会

群馬県の「社会経済活動再開に向けたガイドライン」の 4 段階の警戒度と行動基準において、夏季大会期間中は「警戒度 1」であり、イベントは感染防止策を講じた上での開催が認められており、上限人数は「5,000 人もしくは収容率 50%のどちらか小さい方を限度とする」とされていた。また、「学校再開に向けたガイドライン」に準じて通常登校が再開されており、部活動も 6 月より再開され、対外試合等の活動が可能であった。

##### ② 秋季大会

8 月 15 日以降、群馬県全域で「警戒度 2」であった。「警戒度 2」でもスポーツイベントの開催は一定条件下で認められており、イベントの上限人数は「5,000 人以下、かつ人と人との間隔を十分確保すること(できるだけ 2 メートル)」とされていた。

##### ③ 春季大会

4 月 3 日以降、太田市と大泉町は「警戒度 3」、他市町村は「警戒度 2」であったが、4 月 17 日からは前橋市と伊勢崎市、5 月 1 日からは県内の全市町村が「警戒度 3」に引き上げられた。「警戒度 3」でもスポーツイベントの開催は一定条件下で認められており、イベントの上限人数は、「5,000 人又は収容定員の 50%のいずれか大きい方を上限とする」とされていた。

#### 3) 高等学校野球連盟(以下、高野連)の指針

##### (1) 感染防止対策ガイドラインの作成

2020 年夏季に開催される予定であった第 102 回全国高等学校野球選手権大会(いわゆる「夏の甲子園」)の中止により、各都道府県予選も中止となった。その後、各都道府県高野連の判断により独自の試合や大会が開催されることとなったが、日本高野連は 2020 年 5 月 27 日に「新型コロナウイルスの感染防止対策ガイドライン」を示した。群馬県もそのガイドラインに基づき対策を講じた上で大会を開催し、検温等の体調管理やアルコール消毒液の設置等の基本的な感染予防措置の他、1 会場最大 2 試合までに規制するために会場数を増加したり、第 1 試合と第 2 試合のチーム入れ替えの際のベンチ消毒等の対策を行った。また、メディカルサポートに関係する具体的な感染予防対策は、3 密の徹底的な回避、入場前の検温、マスク着用必須であった。

## (2) サポート依頼内容

### ① 夏季大会

投手および野手の試合後のクーリングダウンは実施せず、試合前および試合中のテーピングや傷害等への対応依頼であった。そのため、派遣する理学療法士の人数は、例年 1～3 回戦は 2 名、4 回戦以降は 6 名としていたが、本大会においては全日程 1 名のみの配置であった。

### ② 秋季大会

試合前および試合中のテーピングや傷害等への対応に加え、希望制で試合後の投手クーリングダウンが再開され、派遣理学療法士数も例年同様 2 名体制となった。

### ③ 春季大会

秋季大会と同内容であった。

## 4) 野球班での準備, 対応

### (1) 感染予防マニュアルの作成 (p108-110 参照)

夏季大会の派遣理学療法士の募集に先立ち、野球班独自の感染予防マニュアル(後述「感染予防マニュアル」参照)を作成した。参加者自身の健康状態や、新型コロナウイルス感染症患者への曝露リスク、勤務先の院外活動参加に対する方針、海外渡航歴、等から参加応募可能条件、サポート当日の参加可能条件を定めた。また、サポート当日は下記「(3) 対応する上での注意点」を徹底することで感染予防対策を行った。関係者から新型コロナウイルス感染症患者が発生した際の感染拡大防止の一助とすることを目的とした、メディカルサポート参加後の健康観察と体調不良時の報告義務等についても明確にした。夏季大会以降は、各大会開催時における社会情勢に応じて、適宜感染予防マニュアル改訂等を行っている。

### (2) 全体打ち合わせ会および練習会

例年、夏季大会前に全体打ち合わせ会として、サポート内容の概要説明や応急処置(熱中症対応、一次救命処置等)の再確認、基本的技術(投手クーリングダウン内容に準じた評価やストレッチ、テーピング)の練習会を実施していた。しかし、令和 2 年度は大会前の全体打ち合わせ会を開催できず、資料配布のみとなった。また、全体打ち合わせ会が開催できないことや、会場に配置する理学療法士数が 1 名のみということから、新規スタッフを募集することができず、経験者のみでのサポート体制となった。

### (3) 対応する上での注意点

理学療法士を含むメディカルスタッフ(医師や看護師、養護教諭)の希望により、アルコール消毒液、ディスポ手袋、フェイスガード、防護用ガウンが高野連側から用意された。対応する上での具体的な注意点は、必要以上の選手への接触や密集を回避するために、応急処置の際の理学療法士の役割は、試合前、試合中のテーピングや、選手の筋痙攣等への対応とすることとし、医師や看護師、養護教諭等の他の医療スタッフと役割分担を明確にした。また、マスクを常時着用すること(可能であれば選手もマスク着用)や、身体的接触がある場合にはグローブを着用すること(テーピング等グローブ着用下では対応が困難な場合を除く)、濃厚接触を避けるために可能な限り 15 分以内で対応すること、対応後に手洗い及び手指アルコール消毒を行うこと、使用したグローブ等はビニール袋に入れて破棄すること、メディカルバッグ内の物品は使用後にアルコール消毒すること、等を徹底した。

【参考資料】

- 1) 群馬県 HP:「社会経済活動再開に向けたガイドライン(改訂版)」  
[https://www.pref.gunma.jp/05/kk01\\_00008.html](https://www.pref.gunma.jp/05/kk01_00008.html)
- 2) 群馬県 HP:「群馬県 学校再開に向けたガイドライン」  
[https://www.pref.gunma.jp/07/b21g\\_00633.html](https://www.pref.gunma.jp/07/b21g_00633.html)

## 1. 参加可能な理学療法士の条件

### 1) 募集時

以下の全ての条件に当てはまらないこととする。

- ① COVID-19 罹患者及び濃厚接触者
- ② COVID-19 患者に接触し曝露リスクが「中リスク」、「高リスク」の場合(注1)
- ③ COVID-19 患者に接触し曝露リスクが「低リスク」だが有症状(注2)の場合(注1)
- ④ COVID-19 罹患者が疑わしく、明確に否定できていない場合(PCR検査で陰性確認等)
- ⑤ COVID-19 罹患者が疑わしく、明確に否定できていない患者と接触し曝露リスクが「中リスク」、「高リスク」の場合(注1)
- ⑥ COVID-19 罹患者が疑わしく、明確に否定できていない患者と接触し曝露リスクが「低リスク」だが有症状(注2)の場合(注1)
- ⑦ 勤務地よりメディカルサポートへの参加が認められていない場合
- ⑧ 過去2週間以内に海外渡航歴がある場合

注1) 曝露リスクのレベルは「医療機関における新型コロナウイルス感染症への対応ガイド 第3版(一般社団法人 日本環境感染学会)」のp12以降を参照

注2) 有症状とは、発熱、咳、呼吸困難、全身倦怠感、咽頭痛、鼻汁・鼻閉、味覚・嗅覚障害、眼の痛みや結膜の充血、頭痛、関節・筋肉痛、下痢、嘔気・嘔吐等のことを指す

### 2) 配置決定～サポート当日まで

- ・ 参加当日は、起床時体温が37.5度未満であり、上記注2に挙げるような症状がないことを確認する。
- ・ サポート参加前に下記のような状況になった場合は、速やかに群馬スポーツリハビリテーション研究会野球班へ連絡する。

#### 【本人の状態について】

状態	対応
本人が陽性	参加不可。
本人が陽性確認され、入院や自宅療養後に職場復帰した場合	主治医や所属施設より職場復帰可と判断されている場合は参加可。
本人が濃厚接触者認定	PCR検査で陰性が確認され、「患者(確定例)」の感染可能期間の最終曝露日から14日間の健康観察後、主治医や所属施設より職場復帰可と判断されている場合は参加可。
本人が体調不良 医療機関受診なし	参加当日の体調不良は参加不可。参加日前であれば、早急に医療機関を受診した後、下記「PCR検査が陰性」もしくは「医師よりPCR検査の必要なしと判断あり」のいずれかの対応をする。

本人が体調不良 PCR 検査が陰性	体調回復後に主治医や所属施設より職場復帰可と判断されている場合は参加可。
本人が体調不良 医師より PCR 検査の 必要なしと判断あり	体調回復後に主治医や所属施設より職場復帰可と判断されている場合は参加可。

### 【同居家族の状態について】

状態	対応
同居家族が陽性	上記「本人が濃厚接触者認定」と同様。
同居家族が濃厚接触者認定(症状の有無を問わない)	同居家族の PCR 検査結果が出る前であれば参加不可。PCR 検査で陰性が確認され、本人の体調不良がなく所属施設より出勤可と判断されている場合は参加可。
同居家族が体調不良 医療機関受診なし	同居家族が医療機関を受診した後、下記「PCR 検査が陰性」もしくは「医師より PCR 検査の必要なしと判断あり」の場合は参加可。同居家族が医療機関を受診していない場合は、本人の症状の有無に関わらず参加不可。
同居家族が体調不良 PCR 検査が陰性	本人の体調不良がなければ参加可。
同居家族が体調不良 医師より PCR 検査の 必要なしと判断あり	本人の体調不良がなければ参加可。

※所属施設で感染者や濃厚接触者が発生した場合についても、【同居家族の状態について】と同様の対応とする。しかし、接触状況によってはこの限りではない。

※対応はあくまで目安であり、上記に該当もしくは該当する可能性がある場合は、速やかに群馬スポーツリハビリテーション研究会野球班に連絡し参加の可否を検討する。

## 2. 感染予防措置

### 1) 全般

- ・ サポート日までは特に「新しい生活様式」を心がけて感染予防に努める。
- ・ こまめに手指衛生(流水と石鹸での手洗い、消毒用アルコール剤)や咳エチケットを心がける。
- ・ サポート当日は常時マスク着用する(高野連の指示に従い、熱中症予防のために屋外かつ周囲に人がいない状況下ではマスクを外すことも検討すること)。

### 2) 球場内での待機

- ・ バックネット裏での待機時には三密を避けるよう注意する(具体的な待機場所は高野連の指示に従う)。
- ・ 昼食時等のマスクを外さざるを得ない際には、対面しないように横並びに座ったり、2m以上の間隔を空ける等をして飛沫予防に十分に努める。

### 3) 選手対応時

- ・ 医師や看護師、養護教諭等の他の医療スタッフと役割分担を明確にする(試合開始前に相談しておくこと)。
- ・ 応急処置における理学療法士の役割は、選手や審判に対する試合前および試合中のテーピングや、筋痙攣等の応急処置とするが、状況によっては臨機応変に対応する。

- ・ マスクは常時着用し、グローブは必要に応じて着用を検討する。
- ・ 可能な限り対応時には選手にもマスクを着用してもらおう(投手クーリングダウン時は選手もマスク必須とする)。
- ・ 応急処置の対応は1人あたり15分以内で対応できるよう心がける。
- ・ 投手クーリングダウンは15分以内での対応を厳守する(投手2名以上の対応時は20分以内)。
- ・ 対応前後は1選手毎に必ず手洗い及び手指消毒を行う。
- ・ 使用したグローブはビニール袋に入れて破棄する。
- ・ メディカルバッグ等の物品はサポート開始時、終了時、選手対応ごとにアルコール消毒を行う。

### **3. サポート参加後の経過観察**

#### 1) 参加理学療法士の対応

サポート参加日より2週間以内に、「感染者」及び「濃厚接触者」と認定された場合、または「濃厚接触者に認定される可能性がある場合」は、群馬スポーツリハビリテーション研究会野球班へ連絡する。

#### 2) 群馬スポーツリハビリテーション研究会野球班の対応

- ・ 参加理学療法士より報告を受けた時点で速やかに関係者(高校野球連盟、同会場に配置されていた理学療法士)へ連絡する。
- ・ 共有物(ファイル、バックなど)を、次亜塩素酸ナトリウム溶液等を用いて消毒する。

### **【参考資料】**

- 1) 一般社団法人 日本環境感染学会：医療機関における新型コロナウイルス感染症への対応ガイド(第3版)

[http://www.kankyokansen.org/uploads/uploads/files/jsipc/COVID-19\\_taioguide3.pdf](http://www.kankyokansen.org/uploads/uploads/files/jsipc/COVID-19_taioguide3.pdf)

- 2) 一般社団法人 日本野球機構：NPB 新型コロナウイルス感染予防ガイドライン(有観客開催) 2021年3月8日, [https://npb.jp/npb/guideline\\_for\\_2021seasongames.pdf](https://npb.jp/npb/guideline_for_2021seasongames.pdf)

- 3) 一般社団法人 日本渡航医学会, 公益財団法人 日本産業衛生学会：職域のための新型コロナウイルス感染症対策ガイド第4版

<https://www.sanei.or.jp/images/contents/416/COVID-19guide1215koukai.pdf>

## 2. サッカー競技における COVID-19 への対応：中学サッカー

### 1) 開催期間

前橋市中学校体育連盟(以下, 市中体連)

交流会: 7月25日～8月1日, 計3日間

新人大会: 9月12日～9月23日, 計5日間

群馬県中学校体育連盟(以下, 県中体連)

新人大会: 10月10日～10月18日, 計4日間

### 2) 政府・自治体等の指針(警戒度)

群馬県の「社会経済活動再開に向けたガイドライン」における警戒度と行動基準において, 市中体連の交流会期間中は警戒度「1」であり, 市中体連及び県中体連の新人大会期間中は警戒度「2」であった。屋外のイベントは「十分な間隔(できれば2m)」を確保できるといった一定条件のもと開催が認められた。

### 3) 市中体連及び県中体連の指針

4～6月にかけて開催予定であった市中体連及び県中体連春季大会と7～8月にかけて開催予定であった市中体連及び県中体連夏季大会は中止となった。群馬県サッカー協会第3種委員会は、「大会再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」を2020年6月1日に発表した。ガイドラインの基本方針として、「政府, 自治体, 学校の自粛方針を尊重した上で, 関わる全ての方の健康・安全を優先すること」と「群馬県が示した『社会経済活動再開に向けたガイドライン』の行動基準が, 警戒度1以下の時に実施すること」を挙げている。市中体連はそのガイドラインに基づいた対策を講じた上で, 夏季大会の代替大会として交流会を開催した。その後, 群馬県サッカー協会第3種委員会は、「群馬県が示す『社会経済活動再開に向けたガイドライン』【警戒度2】についての対応」を2020年8月18日に発表した。本通知には, 通常の学校教育活動及び部活動が実施できているといった一定の条件が満たされる場合, 警戒度「2」の場合でも感染対策下にて大会を実施する旨が記載されている。その後, 9～10月にかけて市中体連および県中体連新人大会が感染対策下にて開催された。

市中体連大会要項には感染対策項目が追加された。追加項目について下記に一部抜粋する。

- ・各校で使用している健康チェックシートを利用して, 継続的に体調管理をして, 試合時には持参する。
- ・各チームともテント等を用意して, 荷物置き場などでも距離が保てる工夫をする。
- ・選手各自で十分な飲み物を用意し, チームで共有するスクイズボトルは使用しない。
- ・各チームの会場での滞在時間は, 最大で3時間以内とする。

### 4) 日本サッカー協会の指針

日本サッカー協会は「JFA サッカー活動の再開に向けたガイドライン」を, 政府の方針や上位団体のガイドラインに基づき2020年5月22日に策定した。本ガイドラインは, 活動時の基準と活動時の留意点(各種手引き・チェックリスト)により構成されている。

上記ガイドラインにおけるメディカルサポート活動の関連項目について一部抜粋する。

- ・選手, 指導者, スタッフは, プレー時以外はマスクを着用する。(屋外で人と十分な距離(少な

くとも 2m 以上) が確保できる場合には、マスクをはずすことができる)

- ・ (更衣室等の利用について、) 換気扇を常に回す、換気用の小窓をあける等、換気に配慮すること。
- ・ (更衣室等の利用について、) スタッフが使用する際は、入退室の前後に手洗いをする。
- ・ トイレ内の複数の利用者が触れると考えられる場所 (ドアノブ、水洗トイレのレバー等) については、こまめに消毒すること。
- ・ メディカルスタッフはラテックスグローブを活用する。

#### 5) サッカー班での準備、対応

大会主催団体及び所属競技団体の方針を確認した上で、サポート時の注意事項について記載した感染対策マニュアルを作成した (p113-115 参照)。健康観察及び体調管理ができていたり勤務機関よりメディカルサポートへの参加が認められているなどといった、募集条件を満たした理学療法士をサポートスタッフとして配置した。サポート体制については、接触リスク軽減等の目的から、1 会場 2 名のメインスタッフのみの配置を原則とする (普段はメイン 2 名、アシスタント 2 名の最大 4 名配置) ことや試合前、ハーフタイム、試合後のサポート対応確認の声掛けを行わず、本部からの依頼時のみ対応するといった変更を加えている。また、感染対策物品として、マスク、消毒液、ハンドソープ、グローブ等をメディカルサポートバッグ内に同梱した。

## 令和 2 年度 サッカー競技メディカルサポートにおける感染対策マニュアル

### 1. 参加理学療法士の選定

#### 1) 理学療法士の募集条件(募集時点の状態にて)

以下の全ての条件に当てはまらないこととする。

- ① COVID-19 罹患者及び濃厚接触者
- ② COVID-19 患者に接触し曝露リスクがある場合(注 1)
- ③ COVID-19 罹患者が疑わしく、明確に否定できていない場合(PCR 検査で陰性確認等)
- ④ COVID-19 罹患者が疑わしく、明確に否定できていない患者と接触し曝露リスクが「中リスク」、  
「高リスク」の場合(注 1)
- ⑤ COVID-19 罹患者が疑わしく、明確に否定できていない患者と接触し曝露リスクが「低リスク」だが  
有症状(注 2)の場合(注 1)
- ⑥ 勤務機関よりメディカルサポートへの参加が認められていない場合
- ⑦ 2 週間以内の海外渡航歴がある場合

#### 2) サポート当日の参加可能条件及び注意事項

- ① 上記募集除外条件のいずれも当てはまらない
- ② 参加当日起床時の体温が 37.5 度未満
- ③ 参加当日に有症状(注 2)がない
- ④ サポート日より 2 週間前からは特に健康観察を徹底して行う。健康観察シート(別紙)を必要に  
応じて使用する。
- ⑤ 仮に健康観察中に有症状(注 2)が出た場合であっても、発症後に少なくとも 8 日が経過して  
いるかつ薬剤を使用していない状態で、解熱後及び症状消失後に少なくとも 3 日が経過してい  
れば可。(職域のための新型コロナウイルス感染症対策ガイド 第 2 版(日本渡航医学会, 日本  
産業衛生学会)より引用)

※参加当日までに有症状(注 2)が生じた場合は、速やかにメディカルサポート部サッカー班に連  
絡し、参加の可否を検討する。

注 1) 曝露リスクのレベルは「医療機関における新型コロナウイルス感染症への対応ガイド 第 3 版  
(一般社団法人 日本環境感染学会)

[http://www.kankyokansen.org/uploads/uploads/files/jsipc/COVID-19\\_taioguide3.pdf](http://www.kankyokansen.org/uploads/uploads/files/jsipc/COVID-19_taioguide3.pdf)  
の p12 以降を参照。

注 2) 有症状とは、発熱、咳、呼吸困難、全身倦怠感、咽頭痛、鼻汁・鼻閉、味覚・嗅覚障害、  
眼の痛みや結膜の充血、頭痛、関節・筋肉痛、下痢、嘔気・嘔吐等のことを指す。

### 2. サポート体制

- ・ 理学療法士数は感染拡大予防の観点から、1 会場 2 名のメインスタッフのみの配置を原則とす  
る。
- ・ 接触頻度低減を目的に試合前、ハーフタイム、試合後の声掛けを行わず、本部からの依頼時  
のみ対応する。
- ・ 理学療法士は常時マスクを着用することを原則とする。屋外で人と十分な距離(少なくとも 2m

以上)が確保できる場合には、マスクを外すことができる。

- ・ ビブスの使い回しを防ぐため、ビブスの着用は免除する。
- ・ 待機場所の環境として、三密を避けるために本部スタッフ及び他理学療法士と1m以上間隔をあける。
- ・ 待機場所の備品として、頻回に手指消毒や環境消毒ができるようにアルコール消毒液やペーパータオルを常備する。
- ・ 昼食等飲食する場合は、複数名が同時にマスクを外している時間がないように時間をずらすことや、同時に飲食する場合でも対面せずに横並びに座る等の飛沫予防を徹底する。

### **3. 対応時の注意点**

- ・ 身体的接触がある場合にはグローブを着用するが、テーピング使用時等グローブを着用している状態では対応が困難な場合には臨機応変に対応する。
- ・ 怪我をした選手に、他の選手やチームスタッフが、むやみに触れることのないようにする。
- ・ 怪我をした選手をピッチ外へ移動する際は、接触低減を目的として担架等を活用する。担架等がなく直接抱えて移動した場合、移動に関わった人は速やかに消毒を行う。
- ・ 可能な限り対応時には選手にもマスクを着用してもらおう(チームスタッフへの対応時も同様)。
- ・ 複数選手による依頼がある場合には、1人ずつ順番に理学療法士の元へ来るように声掛けする。
- ・ 選手への対応は1人あたり15分以内で対応できるよう心がける。
- ・ 対応前後は1選手毎に必ず手洗い及び手指消毒を行う。
- ・ 周囲環境及びメディカルバッグ等の物品はサポート開始時、終了時、選手対応毎にアルコール消毒を行う。
- ・ 更衣室など屋内に入る場合は、入室の前後に必ず手洗いをを行い、他の利用者と密になることを避ける。
- ・ 試合会場のルールに従い、ゴミを密封した状態で処分する。

### **4. サポート参加後の経過観察**

- ・ サポート参加時より2週間を経過観察期間とする。健康観察シート(別紙)を必要に応じて使用する。
- ・ 経過観察期間内に下記条件に該当する場合は下記連絡先\*まで連絡する。尚、ご連絡頂いた個人情報には必要に応じて大会本部への報告等に用いるが、外部に漏洩することのないよう厳重に管理する。
  - ① 上記の症状(注2)が出現し、COVID-19罹患が疑われる場合
  - ② 周囲にCOVID-19患者が発生した場合
  - ③ COVID-19濃厚接触者であることを参加後に知った場合
  - ④ 上記条件に類似及び関連する状況となった場合

### **5. 選手の体調について**

- ・ 大会終了後2週間以内に、対応選手のCOVID-19罹患が疑われる場合にはご連絡頂けるよう大会本部と調整する。

## 6. その他

- ・ 物品（メディカルバッグ内に同梱）
- マスク（理学療法士は各自用意する。予備はバッグ内に同梱）
- 消毒液（エタノール，2-プロパノール，0.05%次亜塩素酸ナトリウム 等）
- 液体ハンドソープ
- グローブ
- ペーパータオル（手洗い用，環境消毒用）
- ビニール袋（グローブ，ペーパータオル等の廃棄等に使用）

### 【参考資料】

- 1) 群馬県「社会経済活動再開に向けたガイドライン」（改訂版）  
<https://www.pref.gunma.jp/contents/100188601.pdf>
- 2) 群馬県サッカー協会第3種委員会「大会再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」  
<http://www.gunma-fa.com/cgiimg/1590659316208342.pdf>
- 3) 群馬県サッカー協会第3種委員会「群馬県が示す「社会経済活動再開に向けたガイドライン」  
【警戒度2】についての対応」  
<http://www.gunma-fa.com/cgiimg/15977305681169620.pdf>
- 4) 日本サッカー協会は「JFA サッカー活動の再開に向けたガイドライン」（第9版）  
[http://www.jfa.jp/about\\_jfa/guideline.pdf?0119](http://www.jfa.jp/about_jfa/guideline.pdf?0119)

### 3. バスケットボール競技における COVID-19 への対応

#### 1) 開催期間

- ・ 令和 2 年度群馬県高等学校バスケットボール選手権大会  
兼 令和2年度第 73 回全国高等学校バスケットボール選手権大会県二次予選会  
2020 年 10 月 24 日(土)・25 日(日)・31 日(土)・11 月 1 日(日)・3 日(火)

#### 2) 政府・自治体等の指針(警戒度)

2020 年 10 月 22 日開催の第 23 回群馬県新型コロナウイルス感染症対策本部会議にて、群馬県の警戒度 2 の継続と、「群馬県「社会経済活動再開に向けたガイドライン(改訂版)」に基づく要請」も同内容で要請が継続された。

上記ガイドラインにおいて、警戒度 2 では一定条件のイベント開催が認められており、イベントの上限人数は、屋内では「収容率(定員に対する割合)」の 50%以内と規定されていた。

#### 3) 群馬県高等学校体育連盟(以下高体連)の指針

県高体連は「新型コロナウイルス感染症に係る群馬県高体連主催大会等実施ガイドライン【Ver.4】」を 2020 年 10 月 21 日に発表した。このガイドラインは、日本スポーツ協会が作成した「スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」及び群馬県が作成した「社会経済活動再開に向けたガイドライン」、「新型コロナウイルス感染症に係る県主催イベント等実施ガイドライン」に基づき作成された。

ガイドラインでは、群馬県のイベント開催や教育活動の方針に従い、部活動が学校教育の一環であることを踏まえ、以下の 4 条件を開催条件と規定している。①群馬県の行動基準において部活動が実施できる状況になっている。②通常の学校教育活動が実施されている。③週休日や対外的な部活動が許可された後、競技特性を考え、生徒が健康・安全(傷害予防や熱中症予防を含む)に参加できる期間を設ける。④感染症拡大防止及び熱中症にならないための対策が十分にとれている。また、後に人数上限、収容率、入場制限などのイベント参加人数に関する項目が追記された。

#### 4) 日本バスケットボール協会の指針

日本バスケットボール協会は 2020 年 9 月 10 日、「JBA(公益財団法人日本バスケットボール協会)バスケットボール活動再開に向けたガイドライン」第 2 版を発表した。競技会開催時の感染対策の要点は以下の通りである。

- ・ 政府や各自治体が、大勢の集まるイベントに関しての制限を解除するまで観客の参加を制限する。
- ・ 試合前、試合後に相手チーム、審判との握手は実施しない。
- ・ 両チームベンチへの挨拶を実施しない。
- ・ 円陣はしない。
- ・ 倒れた選手に手を貸さない。
- ・ ハイタッチ、抱擁を行わない。
- ・ 咳エチケットを守ること。
- ・ ボトルを共有しないこと。
- ・ タオルを共有しないこと。

- ・ コート上でチームメイト、審判と会話する際にもお互いの距離について配慮すること。
- ・ ベンチではマスクを着用し、会話を控えること。

一方指針では、バスケットボールの消毒は、ボールそのものの劣化を招く可能性があり、頻繁な手洗いと手指消毒が推奨されている。また会場において、感染が疑われる体調不良者や負傷者が発生した場合は、マスクや手袋を着用したスタッフが対応することや、陽性者／濃厚接触者／体調不良者が判明した場合の対応を、具体例を示して詳細に紹介している。

#### 5) 群馬県バスケットボール協会の指針

群馬県バスケットボール協会は県高体連作成の「新型コロナウイルス感染症に係る群馬県高体連主催事業等実施ガイドライン」に沿った対策を講じるとともに、細部については、各競技団体作成のガイドラインや群馬県作成の「新型コロナウイルス感染症に係る県主催イベント等開催ガイドライン」に準じた万全の対策を講じることとしている。

県高体連バスケットボール競技専門部は、大会開催の感染対策として、会場内の入場人数を制限し、密を回避するために無観客試合とし、会場内には対戦チームと協会関係者のみ入場を認めた。また次試合の対戦チームは、前試合チームが退場し、会場内の消毒完了後に入場するよう規定された。ハーフタイムに行っていた次試合チームのコートアップは行わず、長めに設定された試合間の時間を利用して試合直前に行う事とした。さらには、1 チーム 1 日 1 試合とし、例年よりも大会会期を長く設定した。

入場人数制限や密回避、あるいはメディカルサポート参加スタッフが大会会場で感染した際の補償が困難である事から、本大会でのメディカルサポートは実施しなかった。

#### 6) バスケットボール班での準備

バスケットボール班では、「新型コロナウイルス感染症に係る群馬県高体連主催大会等実施ガイドライン」に基づき「バスケットボールメディカルサポート活動における感染予防マニュアル」を作成し、メディカルサポートの計画・準備を行った(p118-119 参照)。

## バスケットボールメディカルサポート活動における感染予防マニュアル

### 1. はじめに

感染症に対する標準予防策は、相手に感染させない、自分が感染しない、感染の媒介者とならないために行う必然的行動です。新型コロナウイルス感染症にいたっては、確立した治療法やワクチンが存在しないこと、重症化リスクが高いことや無症状感染で感染を拡げる恐れもあることなどから、より徹底した感染対策が必要となります。

本マニュアルは、標準予防策に加えて、「新しい生活様式」、「新型コロナウイルス感染症に係る群馬県高体連主催大会等実施ガイドライン」に基づいて作成しております。

関わる全ての方の安全、安心のため、感染予防に努めていただきますよう、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

### 2. メディカルサポート活動参加申し込み時の留意点

下記の点をご確認の上、参加申し込みください。

- ・ ご所属先より、地域活動やボランティア活動など業務外活動への参加が禁じられていない。
- ・ 参加日前2週間における健康状態（体温、咳、咽頭痛、倦怠感、呼吸苦、嗅覚・味覚異常の有無）を報告できる（指定書式あり「GuBA 健康チェックシート」）。
- ・ 政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とする国、地域等への渡航または当該在住者と濃厚接触となる状況はない。

### 3. メディカルサポート活動に参加できる条件

参加していただくには、以下の条件を満たす必要があります。

- ・ 新型コロナウイルス感染症陽性者（以下、陽性者）、または濃厚接触者ではない。
- ・ 参加日前2週間以内で、陽性者との接触が疑われるような状況はなかった（陽性者と接触が疑われる状況の一例：接触確認アプリから陽性者と接触があったと通知された、立ち寄った場所で陽性者が確認された）。
- ・ 参加日前2週間以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とする国、地域等への渡航または当該在住者との濃厚接触はなかった。
- ・ 参加日前2週間以内の健康状態は良好であった。
- ・ 参加日当日の健康状態は良好である（体温は37.5℃未満、咳、咽頭痛等はない）。

### 4. メディカルサポート活動における感染予防対策

#### 1) 全般（選手権大会県2次予選会の要項を参考）

- ・ 無観客試合であること。
- ・ 1度に会場内に入場できるのは、対戦する2チームとその試合を運営するスタッフのみ。
- ・ 試合後は消毒のための時間が設定され、その後、次戦のチームと入れ替える。
- ・ 通常、ハーフタイム中に行う次戦チームの練習時間は設けず、試合間（30分）に練習時間を設定する。

## 2) 待機時

- ・「新しい生活様式」に則って待機する。

## 3) 対応時

- ・本活動は、感染症予防における標準予防策に準じて行う。
- ・体調不良者については、本活動においては基本的に対応しない。
- ・依頼者の属性を対応者名簿に記録する。
- ・依頼者にもマスクの着用を義務付ける(依頼者がマスク着用困難な場合、フェイスシールド、またはアイガードを着用し対応する)。
- ・濃厚接触を避けるため、身体接触不要時はお互いに1m以上離れる。
- ・濃厚接触を避けるため、対応は15分以内で行う。
- ・共有物品(メディカルバック内の物品等)は、使用の度、消毒を行う。
- ・対応で生じたゴミは依頼者が処分する。

## 4) 必要物品・書類

- マスク(持参)
- ラテックスグローブ
- 消毒液(物品消毒用)
- タオル(物品消毒用)
- フェイスシールド(またはアイガード)
- GuBA 健康チェックシート
- 対応者名簿

## 5) メディカルサポート活動参加後の留意点

- ・参加後は、速やかにご帰宅いただき、手洗い、うがい、入浴、着替えを行ってください。
- ・参加後に選手・関係者に新型コロナウイルスの感染が判明した場合は、速やかにご連絡いたします。
- ・参加後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を疑う症状が出た場合や、報告が必要と判断される事態が生じた場合は、速やかにご連絡ください。

## 【参考資料】

- 1) 「新型コロナウイルス感染症に係る県主催イベント等実施ガイドライン」:  
県主催イベント等実施ガイドライン ([pref.gunma.jp](http://pref.gunma.jp))
- 2) 「JBA(公益財団法人日本バスケットボール協会)バスケットボール活動再開に向けたガイドライン」第2版: [JBA\\_Guideline\\_3rd\\_20210120.pdf](http://japanbasketball.jp) ([japanbasketball.jp](http://japanbasketball.jp))
- 3) 「新型コロナウイルス感染症に係る群馬県高体連主催事業等実施ガイドライン」:  
群馬県高体連主催大会等実施ガイドライン【Ver.4】1021.pdf ([gunma-koutairen.com](http://gunma-koutairen.com))
- 4) 「新型コロナウイルス感染症に係る群馬県高体連主催大会等実施ガイドライン【Ver.3】」:  
群馬県高体連主催大会等実施ガイドライン【Ver.3】0814.pdf ([gunma-koutairen.com](http://gunma-koutairen.com))
- 5) GuBA 健康チェックシート: [Health check.pdf](http://gunmabasketball.com) ([gunmabasketball.com](http://gunmabasketball.com))